

まとめ

保護者アンケートから ☆がんばっているところ

- ・学年問わず仲よくできている。
- ・農業体験や地域の学習は、とてもよい体験である。
- ・学校生活における感染症の拡大防止対策がありがたい。
- ・コロナ禍での工夫した行事の実施（運動会・学芸会・水害想定避難訓練）がよかった。
- ・子どものこと等での相談がしやすい。また、対応が早い。
- ・家庭学習への見取り、月例テストの取り組みがありがたい。
- ・おたよりやホームページ等での連絡が、よい。

(主な内容)

保護者アンケートから ★さらにがんばってほしいところ

- ・ゲームや動画の時間、タブレットの持ち帰り等、メディアの上手な管理の仕方について、指導してほしい。
- ・行事での、当日の参加者名簿の確認をしっかり行ってほしい。
- ・コロナ禍での、子どもたちへのストレス対策をお願いしたい。

(主な内容)

学校から 経営のまとめ（成果と課題）

○教育目標達成に向けて、コロナ禍であっても学びの可能性を探り、学習活動を継続し、子どもたちの成長を後押しすることができた。

- ・縦割り班活動や委員会活動の工夫による異学年交流の充実。
- ・生活科や総合学習を核にした、地域の人やもの等と関わることによる郷土愛の醸成。
- ・HP等による教育活動のこまめな発信。
- ・工夫した読書指導による、貸出冊数の増加と、意欲的な読書への取り組み。
- ・ALTと連携した楽しい外国語活動。
- ・授業や家庭学習での効果的及び定期的な使用によるICT機器活用の日常化。
- ・毎月の心のアンケートやヒヤリハットシートによる子どもの心への継続した寄り添い。

□確かな学力を育成する授業改善や、交流の方法の工夫と機会の確保等、子どもの健康安全意識を高めつつ、可能な限りの学習活動や体験活動を行うようにする。

□家庭での読書の習慣化や質の向上が図られるように工夫した読書指導を継続していく。

□よりよい生活リズム作りへ意識づけを行う。

学校関係者評価委員会のまとめ（成果と課題）

○児童や保護者のアンケートで「◎」の割合が増えてきていることは、非常によいことだ。

○コロナ禍ではあるが、これまでのように「これならできる」という活動を行ってほしい。そして、常に発信することが大切だ。学校の行事等は地区を元気にしてくれる。

○地域等との連携をこれからも大切にしてほしい。除雪や樹木の毛虫等、学校が、今は、うまく地域のシステムと若い住民の思いをつなぐ役割を果たしてくれている。

○読書習慣作りで、まずはたくさん読むように、冊数を意識させていくことは大切である。

□読書習慣が徐々に確立されてきたら、推薦本の紹介やポップづくり等、「量」から「質」へ段階を上げる指導が必要である。

□早寝早起きに関しては、昨年と変わりなく今年も悩んでいる保護者が多い。

□タブレットでの誹謗中傷等、安全やリスクの指導も充実させながら、ぜひICT教育を推進することが大切である。また、データの管理もしっかり行っていかなければならない。

学校評価報告書

本年度の学校教育目標を受けて、「経営の重点及び具体策」を16項目設定し、具体的実践を行ってきました。12月にアンケートを実施して保護者の方々からご意見をいただき、その結果をまとめました。また、教職員が現状分析して「成果と今後の課題・対策」を一覧表にし、2月3日に学校関係者評価委員（区長協議会長・公民館長・市議会議員・民生委員児童委員代表・婦人会会長・PTA会長・PTA副会長）からご意見をいただきました。ご意見をもとに、学校評価報告書を作成しました。今後とも、大富小学校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



経営の重点及び具体策

・学び合える学級風土へ

・「かかわり」から「つながり」へ

・読書習慣の確立へ

心豊かで思いやりのある子どもを育てるために（徳）

- ① 学年・学級経営
- ② 道徳指導
- ③ 教育支援
- ④ かかわりを大切にした活動
- ⑤ 地域との双方向の交流



自ら考え互いに学び合う子どもを育てるために（知）

- ① 探究型学習の視点から主体的・対話的で深い学びの実現
- ② 校内研究の推進
- ③ 読書活動の充実
- ④ 外国語活動教育の充実
- ⑤ 情報教育の充実



心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）

- ① 「いのち」の教育の推進
- ② 教科体育を核とした体力・運動能力向上の取組
- ③ 校内外の積極的な生徒指導の充実
- ④ 教育相談活動の充実
- ⑤ 幼保小中連携教育の推進
- ⑥ 環境教育



学校評価報告書			
学校教育目標【自己肯定感を高め 正しい判断力と感性で 主体的に行動できる子どもの育成】			
教育目標	達成の状況	重点項目	成果(○) 課題(□)・今後の対策
1	心豊かで思いやりのある子どもを育てるために（徳）	① 学年・学級経営	○各学級で学級会議を行うことで、学級のよさや頑張りや気付き、改善点に向けた取り組みについての意識が高まった。また、集会で各学級でプレゼンテーションを行うことで、所属意識が高まったりそれぞれのクラスの頑張りや認め合ったりすることができた。○学年末のゴールを達成し、長・中・短期の評価サイクルで指導に取り組んできた。○今後も相手を認め受け入れる学級の雰囲気作り、支持的な学級風土の構築に努めていく。
		② 道徳指導	○日常生活、教科、行事などに関連付けながら授業づくりに取り組むことができた。子どものノートやワークシートの活用を図ることで、道徳的判断力や心情などを理解することができた。振り返りでは、共感・寛容・批判的な考えがみられるようになった。□授業では理解できるが、生活の中で実際に行動することができない。○生活や教科と道徳の教科書の内容の時期が結び付けられるようにカリキュラムマネジメントをしていく。
		③ 教育支援	○UDの視点の中でその月に重視することを選んで取り組んだことで、全学級での学習環境づくりにつながった。また、職員会議で振り返る時間を設け、授業づくりで役立てられた。○校内研究と関連して、一人一人のよりよい学びにつながるよう、UDの視点を生かした授業づくりに努めていく。○個別に支援が必要な児童について校内で共通理解を図り、授業中や各種活動中に適切な支援ができた。
		④ かかわりを大切にした活動	○縦割り班遊びを継続して行うことで、高学年のリーダーシップやフォローアップを育むことができた。また、学年を超えて関わることの楽しさや満足感を味わうことができた。○清掃名人の取り組みを通じてより学校を綺麗にしようという意識が生まれ、互いに教え合う姿が見られるようになった。
		⑤ 地域との双方向の交流	○総合的な学習を軸にし、地域の人やモノを生かした大富らしい教育活動が行われた。3年生のイバトミヨ絵画展は、教科横断的な視点や公民館との連携という点でもよい取り組みだった。○学校行事については、感染症対策を講じた上で実施していることを感謝する声がとても多く、保護者にも評価していただいている。
2	「かかわり」から「つながり」へ（学級の基礎）	⑥ 探究型学習の視点から主体的・対話的で深い学びの実現	○校内研や職員会議を中心に、授業づくりや子どもたちの様子について共有した。効果的な課題設定や学び合う場面設定において主体的・対話的に学ぶ多様な姿が数多く見ることができた。○学びの振り返りが、一人一人の次への学習意欲や家庭学習への広がりになっていくよう、充実にも努めていく。
		⑦ 校内研究の推進	○つながりをキーワードに「研究の視点」や「目指す子どもの姿」を整理し、研究一年次としての基礎作りができた。○ICTのよさを生かした実践も見られた。○ローテーション方式による事前研究会や模擬授業を行うことで、参観者が授業者の思いを共通理解しうえて授業研究会を実施することができ、事後研究会での話し合いも深まった。○仲間とのつながりをどのようにコーディネートしていくか、更なる実践を積み重ねていく。
		⑧ 読書活動の充実	○131周年とタイアップした大富賞（131冊達成）の取り組みにより、学校全体の読書量を増やすことができた。○今年度は3回読み聞かせをすることができ、本により読む機会をつくることができた。○1日の貸し出し冊数の制限を設けないことで、貸出冊数が増えたり、朝の時間や空き時間に読んで読書をした子どもが増えた。○家庭で読んで読書をする子どもを育成することが課題である。
		⑨ 外国語活動教育の充実	○ALT配置計画を作成し、各学年その計画に沿って実施することができた。学芸会では六年生と一緒に英語劇に取り組み、活動の幅を広げることができた。また、今年度から外国語に関する掲示をALTに依頼し、子ども達の興味関心を高めることができた。○デジタル教科書を活用しながら、ALTと連携し、見通しを持って計画的に学習を進めることができた。
		⑩ 情報教育の充実	○eライブラリの日を設定し、家庭でもeライブラリを活用し、復習を行うことができた。○毎朝の健康観察、タイピング練習などで日常的にタブレットを使用することで、操作に慣れ親しむことができた。また積極的に授業でもタブレットを活用し意見をまとめたり、疑問点を調べたりすることができた。○ICT活用能力育成に合わせた情報活用能力育成・校務支援システム導入
3	自ら考え互いに学び合う子どもを育てるために（知）	⑪ 「いのち」の教育の推進	○綿密な計画のもと、引き渡し訓練を滞りなく実施することができた。○ヒヤリハットアンケート・心のアンケートを毎月行うことで、校内・校外生活における児童の安全意識を高め、学校全体で情報共有することができた。○栄養教諭の低致し、各学年の実態に応じた栄養指導を行い、食育に力を入れた。○警戒レベルの低下に伴い、食後の歯磨きを行った。○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる衛生指導を通し、「いのち」を大切にする心を育むことに注力した。
		⑫ 教科体育を核とした体力・運動能力向上の取組	○感染症予防を図りながら、子ども達が「できる」喜びを感じられるような学習ができた。また、校内陸上記録会や運動会も無事に開催することができた。○校内マラソン記録会では、「全員歩かず走」を目標に多くの児童が意欲的に取り組むことができた。○昨年度に引き続き、今年度も水泳と相換の授業を行うことができなかった。来年度の実施の方法を検討する必要がある。
		⑬ 校内外の積極的な生徒指導の充実	○基本的な生活習慣確立のため、長期休業明け年3回、生活リズムががんばり週間を設定し、家庭の協力を得られるような取り組みを行った。○長期休業明けの生活改善のための取り組みなので、時期の設定を考える必要がある。○生活リズムやメディアコントロールについての指導の機会を設け、充実させていきたい。
		⑭ 教育相談活動の充実	○各種アンケートの結果に素早く対応できるように校内で共通理解を図ってきた。○子ども同士のトラブル等にも担任の先生方を中心に丁寧に聞き取っていただき、解決に導くことができた。また、必要に応じて保護者にも連絡し、速やかに連携をとることができた。○不登校傾向が心配される児童の保護者と面談の場を設け、学校と家庭のつながりをもたせることができた。○ケース会議の対象児童や内容を整理しながら、継続的・定期的に会議を開いていくようにしたい。
		⑮ 幼保小中連携教育の推進	○コロナ禍の中で可能な限りできる連携を進めてきた。中学校の体験入学ができたのはよかったと思う。感染拡大の影響で、幼稚園・保育所等との交流は難しかったが、ビデオメッセージ等、可能な形で交流を検討したい。子どもについての情報交換・共有は、一層密にしていきたい。
心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）	読書習慣の確立へ（社会性の基礎）	⑯ 環境教育	○感染予防に努めながらペットボトルキャップ回収を行うことができた。またISOチェックなどにより、子ども達のISOに対する意識を高めることができた。○イバトミヨを通した環境教育では、図画工作などの他教科と横断しながら環境について学習を深めることができた。○電気代や水道代など数値でわかるものを児童に示しながら、省エネに対する意識を高めていきたい。
		⑰ 読書活動の充実	○131周年とタイアップした大富賞（131冊達成）の取り組みにより、学校全体の読書量を増やすことができた。○今年度は3回読み聞かせをすることができ、本により読む機会をつくることができた。○1日の貸し出し冊数の制限を設けないことで、貸出冊数が増えたり、朝の時間や空き時間に読んで読書をした子どもが増えた。○家庭で読んで読書をする子どもを育成することが課題である。
心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）	読書習慣の確立へ（生活習慣の確立）	⑱ 「いのち」の教育の推進	○綿密な計画のもと、引き渡し訓練を滞りなく実施することができた。○ヒヤリハットアンケート・心のアンケートを毎月行うことで、校内・校外生活における児童の安全意識を高め、学校全体で情報共有することができた。○栄養教諭の低致し、各学年の実態に応じた栄養指導を行い、食育に力を入れた。○警戒レベルの低下に伴い、食後の歯磨きを行った。○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる衛生指導を通し、「いのち」を大切にする心を育むことに注力した。
		⑲ 教科体育を核とした体力・運動能力向上の取組	○感染症予防を図りながら、子ども達が「できる」喜びを感じられるような学習ができた。また、校内陸上記録会や運動会も無事に開催することができた。○校内マラソン記録会では、「全員歩かず走」を目標に多くの児童が意欲的に取り組むことができた。○昨年度に引き続き、今年度も水泳と相換の授業を行うことができなかった。来年度の実施の方法を検討する必要がある。
心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）	読書習慣の確立へ（生活習慣の確立）	⑳ 校内外の積極的な生徒指導の充実	○基本的な生活習慣確立のため、長期休業明け年3回、生活リズムががんばり週間を設定し、家庭の協力を得られるような取り組みを行った。○長期休業明けの生活改善のための取り組みなので、時期の設定を考える必要がある。○生活リズムやメディアコントロールについての指導の機会を設け、充実させていきたい。
		㉑ 教育相談活動の充実	○各種アンケートの結果に素早く対応できるように校内で共通理解を図ってきた。○子ども同士のトラブル等にも担任の先生方を中心に丁寧に聞き取っていただき、解決に導くことができた。また、必要に応じて保護者にも連絡し、速やかに連携をとることができた。○不登校傾向が心配される児童の保護者と面談の場を設け、学校と家庭のつながりをもたせることができた。○ケース会議の対象児童や内容を整理しながら、継続的・定期的に会議を開いていくようにしたい。
心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）	読書習慣の確立へ（生活習慣の確立）	㉒ 幼保小中連携教育の推進	○コロナ禍の中で可能な限りできる連携を進めてきた。中学校の体験入学ができたのはよかったと思う。感染拡大の影響で、幼稚園・保育所等との交流は難しかったが、ビデオメッセージ等、可能な形で交流を検討したい。子どもについての情報交換・共有は、一層密にしていきたい。
		㉓ 環境教育	○感染予防に努めながらペットボトルキャップ回収を行うことができた。またISOチェックなどにより、子ども達のISOに対する意識を高めることができた。○イバトミヨを通した環境教育では、図画工作などの他教科と横断しながら環境について学習を深めることができた。○電気代や水道代など数値でわかるものを児童に示しながら、省エネに対する意識を高めていきたい。
			学校関係者評価委員会から